

海内七島也号我

定

13  
2946  
4



2992

2946  
4



昭和九年  
七月二日  
贈末



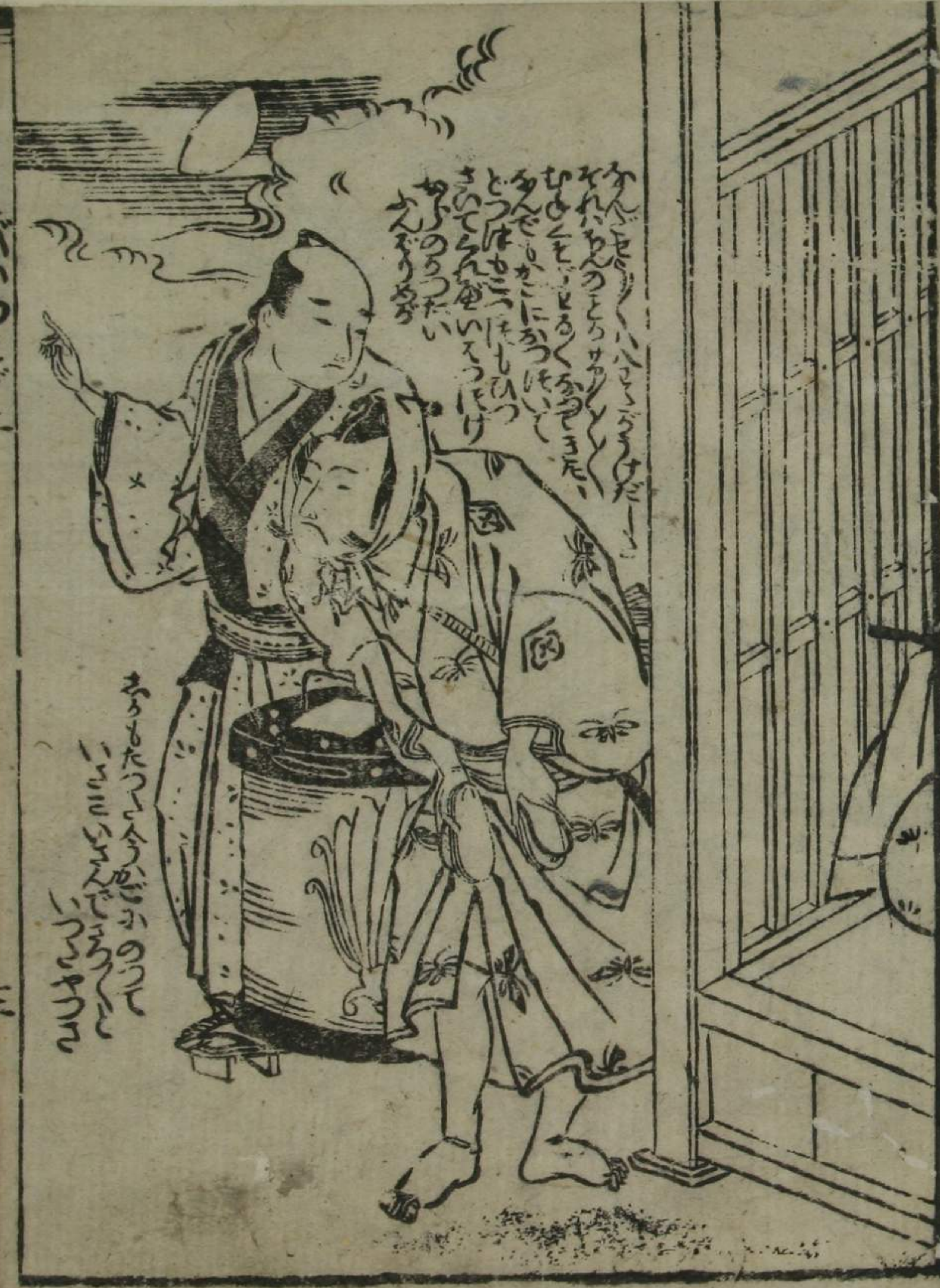
じつちやつておさかさいや  
じつちやつておさかさいや

そがのうらた  
きたりしに  
よびかけか  
あうけら  
くらまを  
あのいけ  
かたまり  
まはる  
まはる



あまのこころをちか  
らうより大いそのこ  
ろにこころをあか  
うけしむにつれて  
あまのこころをちか  
らうより大いそのこ  
ろにこころをあか  
うけしむにつれて  
あまのこころをちか  
らうより大いそのこ  
ろにこころをあか  
うけしむにつれて

かた入る  
まはる  
まはる



かんざし...  
その...  
ひよこ...  
とつ...  
さ...  
か...  
か...

あ...  
い...  
し...



か...  
あ...  
し...  
あ...

ま...  
あ...

あ...  
あ...

あ...  
あ...





ふにばきま  
くちもけり  
みづのいせの  
まけんか後の  
あまのたかか  
とろむま用にとろま  
たにん上人の白のとり  
うけつはまをけまま  
たいわんそむの回す  
うけとろ

あまのたかか  
とろむま用にとろま  
たにん上人の白のとり  
うけつはまをけまま  
たいわんそむの回す  
うけとろ

あまのたかか  
とろむま用にとろま  
たにん上人の白のとり  
うけつはまをけまま  
たいわんそむの回す  
うけとろ



あまのたかか  
とろむま用にとろま  
たにん上人の白のとり  
うけつはまをけまま  
たいわんそむの回す  
うけとろ

あまのたかか  
とろむま用にとろま  
たにん上人の白のとり  
うけつはまをけまま  
たいわんそむの回す  
うけとろ

あまのたかか  
とろむま用にとろま  
たにん上人の白のとり  
うけつはまをけまま  
たいわんそむの回す  
うけとろ





川島の  
いかにいんじんした  
いかにいんじんした  
いかにいんじんした  
いかにいんじんした  
いかにいんじんした  
いかにいんじんした

いかにいんじんした  
いかにいんじんした  
いかにいんじんした  
いかにいんじんした  
いかにいんじんした  
いかにいんじんした



いかにいんじんした  
いかにいんじんした  
いかにいんじんした  
いかにいんじんした  
いかにいんじんした  
いかにいんじんした

いかにいんじんした  
いかにいんじんした  
いかにいんじんした  
いかにいんじんした  
いかにいんじんした  
いかにいんじんした

いかにいんじんした  
いかにいんじんした  
いかにいんじんした  
いかにいんじんした  
いかにいんじんした  
いかにいんじんした







上ハいろそが中

五ツマ  
とんひハ  
るやあう

ミツマロツマ  
らびりに  
かりエ  
もの

十八のあまつ  
風かまつこあす  
えのつひ  
だこハ時の  
け人上もつ

はたこてさつて  
をさるるのり  
よさ風か  
けの上させん  
えが足才ま  
いどむつに  
いひつ  
いせる



ふもせんうまひの  
むとみかこま  
せひもあひいらあ  
うごがいのあ  
ま竹ま  
らららるるあま  
いひうけ  
これ

あまの  
うまの  
この  
いさ  
かり  
マリ  
いさ  
いけ  
お同  
この  
いさ  
ひら  
ひら  
ひら

「まの侍の時辰女つひ...」  
「のちもひさよのさか...」  
「つひあつちか...」  
「その内あつびに...」  
「せんたせけ...」  
「さよまるよつ...」  
「いまで...」  
「いせ...」  
「人命まつ...」  
「六板尾重正  
田川春昌  
くたあせつけ  
つはとせがれ  
わうねに  
さるくとの  
いんびやうにか  
けあつこよ



ちよと  
ねのまけ  
まにつか  
ゆらまの

「あつちか...」  
「いまで...」  
「まにつか...」  
「ゆらまの...」



「まの侍の時辰女つひ...」  
「のちもひさよのさか...」  
「つひあつちか...」  
「その内あつびに...」  
「せんたせけ...」  
「さよまるよつ...」  
「いまで...」  
「いせ...」  
「人命まつ...」  
「六板尾重正  
田川春昌  
くたあせつけ  
つはとせがれ  
わうねに  
さるくとの  
いんびやうにか  
けあつこよ

とびいれをが中

「あつちか...」  
「いまで...」  
「まにつか...」  
「ゆらまの...」





は三月下吉の日にありあけ  
下月のその日だより  
同日下吉の日にありあけ  
よりともが同る上に  
あひてまじかりそ  
より上平正の  
あだんの  
あかひ  
あんち  
あやつけ  
たぞ

おしん  
のそその  
よりあ  
いあり  
つらまのひだ  
あかひ  
あんち

こかくひやい  
こらくせと山  
あんち  
あんち  
あんち  
あんち

あや  
あんち  
あんち  
あんち



は三月下吉の日にありあけ  
下月のその日だより  
同日下吉の日にありあけ  
よりともが同る上に  
あひてまじかりそ  
より上平正の  
あだんの  
あかひ  
あんち  
あやつけ  
たぞ

あや  
あんち  
あんち  
あんち



さかづきありしあまのこ  
エとうちあひしりまた  
そが足オのま

大と内サ  
そがさあふた  
のたこして  
ま



かたこけ  
これにやう  
二かこけ  
の赤木つるの  
竹たかて  
足五のこ  
うまんのら  
子ゆめ  
うらま

まのり  
深の内  
孝と  
五月十  
うらま  
足や  
中

桂馬

先一と云ふが、かゝるもの  
つりめだりらの手馬、  
桂馬だにたかありして

兄弟乃牛の

あぶらとり  
あぶらとり

三つんの大風かまの  
あく白をまま、  
いせいをさま、  
こんや、やどか尾と  
あつて高塚こけて  
小げにける

五だ、小脚所の黒弥吾が我名  
のいろいろの、またこのふくんに  
あぶらとり  
一度、のたき  
のふたの、次と  
くいに、ちん



一番のたにこつと用、友右、なや  
のこつと名も、すん、  
二帝が、す、  
す、  
す、  
す、

あちちけり  
あちちけり  
あちちけり  
あちちけり  
あちちけり



目なごたにこの紙  
の七郎墨繪の、  
のひめん、  
のひめん、  
のひめん、  
のひめん、



六番ハ、い、の、甲、  
電の、酒、  
あ、  
あ、  
あ、  
あ、



七だ、い、の、小、  
うん、の、月、  
ちん、  
あ、  
あ、  
あ、  
あ、  
あ、



八番ハ、い、花、  
ひ、  
ひ、  
ひ、  
ひ、  
ひ、



十だ、八、仁、田、の、四、  
字、の、而、角、だ、こ、千、  
の、母、へ、つ

獅子

尻尾をさ、せり、  
の、陣、を、落、お、り



あ、  
あ、  
あ、  
あ、  
あ、  
あ、  
あ、  
あ、

九番のたに、孔、雀、  
まん、  
か、て、尻、尾、の、お、も、ひ、に、  
子、の、料、理、お、て、さ、く、  
の、を、川、に、さ、り、  
五、郎、九、女、に、ら、ま、よ、り、  
と、ま、ら、れ、あ、ひ、  
あ、あ、  
あ、あ、  
あ、あ、  
あ、あ、  
あ、あ、





とひいみそ

このひの又上の...  
十席を人のけの上の...  
つり合...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...



意川  
春町画馬

一什

S

